

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-154618

(43)公開日 平成9年(1997)6月17日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 C 13/00			A 4 5 C 13/00	M
			11/00	E
B 6 5 D 85/38		0333-3E	B 6 5 D 85/38	Z

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 6 頁)

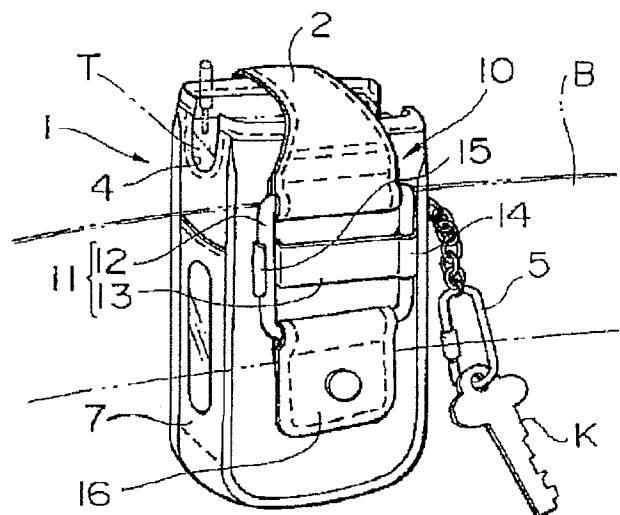
(21)出願番号	特願平7-302135	(71)出願人	395019214 古賀 信秀 東京都新宿区百人町2丁目4番5-604号
(22)出願日	平成7年(1995)10月26日	(72)発明者	都 武雄 東京都足立区西新井本町4丁目13番23号
(31)優先権主張番号	特願平7-284613	(72)発明者	古賀 信秀 東京都新宿区百人町2丁目4番5-604号
(32)優先日	平7(1995)10月5日	(74)代理人	弁理士 原田 寛
(33)優先権主張国	日本 (J P)		
(31)優先権主張番号	実願平7-11657		
(32)優先日	平7(1995)10月6日		
(33)優先権主張国	日本 (J P)		

(54)【発明の名称】 移動電話機等の携帯用収納ケース

(57)【要約】

【課題】 移動電話機等の各種機器を簡単確実に収納してスラックス用ベルト、肩掛けベルト等のいずれにも選択的に保持固定できるようにする。

【解決手段】 各種の収納保持物品Tを収納する開閉自在なケース本体1に、ベルト類Bに保持する保持機構10を設ける。保持機構10は、ケース本体1の後側壁外側面上部に揺動自在に連繋した係止棒12と、この係止棒12の左右棒部のいずれか一方に揺動自在に連繋され、いずれか他方に着脱自在に係合する係止板13とを備え、係止板13自体を揺動開閉することでベルト類Bに係止棒12の上下棒部と共に蛇行状に挟み込むようにすると共に、係止手段11の下部をケース本体1の裏面下部に着脱自在に固定する固定手段16を設けて成る。また、ケース本体1には、キーホルダー5、収納ポケット7の少なくともいずれか一方を付設し、ケース本体1の上部開口には、前後側壁に跨る狭幅の閉塞片2を開閉自在に掛け渡して構成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 収納保持物品を収納する開閉自在なケース本体が保持機構を介してベルト類に保持されるようにした移動電話機等の携帯用収納ケースにおいて、保持機構は、ベルト類を挟み込み係止する揺動開閉自在な係止板を有し、ケース本体の裏面上部において上方に揺動自在にして連繫されている係止手段と、この係止手段の下部をケース本体の裏面下部に着脱自在に固定する固定手段とから成ることを特徴とする移動電話機等の携帯用収納ケース。

【請求項2】 ケース本体には、キーホルダー、収納ポケットの少なくともいずれか一方を付設してある請求項1記載の移動電話機等の携帯用収納ケース。

【請求項3】 ケース本体の上部開口には、前後側壁に跨がる狭幅の閉塞片を開閉自在に掛け渡してある請求項1または2記載の移動電話機等の携帯用収納ケース。

【請求項4】 係止手段は、ケース本体の後側壁外側面上部に揺動自在に連繫した係止棒と、この係止棒の左右桝部のいずれか一方に揺動自在に連繫され、いずれか他方に着脱自在に係合する係止板とを備え、係止板自体を揺動開閉することでベルト類を係止棒の上下桝部と共に蛇行状に挟み込むようにしてある請求項1乃至3のいずれか記載の移動電話機等の携帯用収納ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、いわゆるPHS電話、携帯電話等の移動電話機を携帯するときに例えばストラップ等のベルト、リュックの肩掛けベルト等に取り付けることで簡単に保持でき、その取り出しも容易で、キーホルダーとしての機能も有する移動電話機等の携帯用収納ケースに関する。

【0002】

【従来の技術】近時、電気通信技術の発達、社会活動の活発化等によって各個人相互間の移動しながらの通信が社会的にも要求され、そのためのいわゆるPHS電話、携帯電話等の移動電話機の使用が飛躍的に増大している。そして、この種の移動電話機は例えば鞆、バッグ、衣服のポケット等にそのまま収納して簡単に携帯できるように電波送受信部、電源部、ダイヤル部、送受話部等を一体にして軽量化、小型化されている。

【0003】ただ、軽量小型化された反面、ハンドトラップ等によってそのままの露出させた状態で吊り下げて携帯保持するときに不意に落下させてしまったり、周囲の各種物体にぶついたり等して損傷させ、また、紛失させてしまうこともある。そのため、これを適当な専用携帯ケース内に収納しておいて、その携帯ケースをベルトの挿通構造のものとしたり、肩掛け式のホルダー構造のものとしたり等して直接的に身体に保持するようにすることも提案されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところが、従来の専用携帯ケースはアンテナを含む電波送受信部を外部に露出させた状態で電話機本体を収納しても、その保持にはベルト挿通式とするか、肩掛け式とするかのいずれか一方のみでしか対応できず、多様な携帯保持形式のものとするよう使用者個人において適当に選択できないものであった。特に、近時は多用されているショルダーバッグ、リュック等の肩掛けベルトによって保持する場合には肩掛けベルトを挿通させるとすると携帯ケースが横向きのものとなって電話機の取り出し、収納に極めて不便なものとなり、場合によっては落下の虞れもあった。

【0005】また、近時はこの種の移動電話機のみならず、各種の電気機器等が携帯可能なように小型化、軽量化されており、例えばポケット式ラジオ、携帯式カセットテープレコーダー、CD・MD再生機その他である。更には、携帯するとしても身体動作の邪魔にならないように手軽に保持するのが好ましい例えばカメラ、フィルム、双眼鏡等もあり、これらの各種の機器の簡易な携帯保持のためのケースの実現が望まれてもいるのである。

【0006】そこで、本発明は叙上のような従来存した諸事情に鑑み創出されたもので、各種の移動電話機その他の各種機器を簡単確実に収納でき、しかも、ストラップ等のベルト、リュック等の肩掛けベルト等のいずれにも選択的に保持固定でき、また、付設のキーホルダーによって多数のキーをも携帯保持でき、保持時では身体動作の邪魔にならず、使用勝手に優れた移動電話機等の携帯用収納ケースを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】上述した目的を達成するため、本発明にあっては、収納保持物品Tを収納する開閉自在なケース本体1が保持機構10を介してベルト類Bに保持されるようにしてあるものにおいて、保持機構10は、ベルト類Bを挟み込み係止する揺動開閉自在な係止板13を有し、ケース本体1の裏面上部において上方に揺動自在にして連繫されている係止手段11と、この係止手段11の下部をケース本体1の裏面下部に着脱自在に固定する固定手段16とから成ることを特徴とする。ケース本体1には、キーホルダー5、収納ポケット7の少なくともいずれか一方を付設して、また、ケース本体1の上部開口には、前後側壁に跨がる狭幅の閉塞片2を開閉自在に掛け渡して構成することができる。更に、係止手段11は、ケース本体1の後側壁外側面上部に揺動自在に連繫した係止棒12と、この係止棒12の左右桝部のいずれか一方に揺動自在に連繫され、いずれか他方に着脱自在に係合する係止板13とを備え、係止板13自体を揺動開閉することでベルト類Bを係止棒12の上下桝部と共に蛇行状に挟み込むようにして構成することができる。

【0008】以上のように構成された本発明に係る移動電話機等の携帯用収納ケースにあって、ケース本体1は

10

20

30

40

50

内部に収納された移動電話機の如き各種の収納保持物品Tを閉塞片2の閉塞によって保持し、保持機構10によってベルト類Bに係止されることで携帯者の身体に装着させる。保持機構10において、係止手段11が下方に向けられ、固定手段16を介して下部がケース本体1の裏面下部に固定された状態ではケース本体1と係止手段11との間にベルト類Bが挿通される空隙が形成され、例えばスラックス類のベルト類Bにケース本体1を直立状にして保持させる。また、固定手段16の解除によって上方へ揺動された係止手段11は、係止板13の開放状態にあってベルト類Bを折り込み状にして挿入させ、その折り込み部分内における係止板13の揺動閉塞及び係止手段11自体の下方への揺動によってベルト類Bをケース本体1の裏面に強く押し当てる。と同時に、閉塞された係止板13と係止棒12の上下棒部とに当接させた蛇行状に挟み込むものとし、例えばリュック等における肩掛けベルト(B)にケース本体1を直立状に保持させ、収納保持物品Tの重量等によっても滑落させない。キーホルダー5は所定のキーKをケース本体1に収納した各種の収納保持物品Tと共に保持させ、収納ポケット7は各種のメモ片を収納させることで緊急連絡先等を明示させ、また、取扱説明書等を収納することで収納した収納保持物品Tの取扱い等を明らかにさせる。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施の一形態を説明するに、図において示される符号1はケース本体であり、このケース本体1は例えばその素材を人工皮革等の合成樹脂、天然皮革、布地その他のものとして収納保持すべき移動電話機、カセットテープレコーダー、カメラ、双眼鏡その他の各種の収納保持物品Tを収納するに足る内容積を有するものとして形成されている。また、その形状は収納保持物品Tを収納した状態で収納保持物品Tを確実に保護できるようにその外形状に沿うものとし、例えば上方からの収納保持物品Tの出し入れを可能とするように上部に開口がある縦長の直方体状に形成されている。そして、上部開口には前後側壁に跨る狭幅の閉塞片2を開閉自在に掛け渡してあり、この閉塞片2は閉塞片2自体の裏面とケース本体1の前側壁表面上部とに設けた面ファスナーの如き止着手段3によって止着できるようにし、また、この面ファスナー(3)のいずれか一方を長く形成することで収納保持物品Tの大小に対応調整してしっかりと閉塞保持できるものとしてある。

【0010】図にあってのケース本体1はいわゆるPHS電話と称される移動電話機(T)を収納保持するに好適なものとするときの形態を示しており、ケース本体1の左右側壁上部を溝状に切り欠いて移動電話機(T)におけるメインスイッチ等を操作するための作用用開口部4とすると共に、前記閉塞片2を狭幅状にして上部開口の左右を開けておくことで送受信のためのアンテナ外出

用の開口部分が得られるものとしてある。もとより、ケース本体1の形態、大きさその他は収納保持すべき収納保持物品Tによって種々に異なるものとするのは勿論であり、図示例に限定されるものではない。

【0011】更に、このケース本体1には、所定のキーK等を携帯保持するためのキーホルダー5が付設されており、このキーホルダー5は例えば左右のいずれかの作用用開口部4の底縁部に連繋されたチェーンに回転ネジ操作によって回転されるロック筒体によって開閉される差入口を有するリング状に形成されているも、これに限定されるものではなく、例えば開閉自在になっている複重リング状構造とする等の適宜な変更が可能である。また、ケース本体1の左右側壁のいずれか一方の外側面にはキーKを収納するキーポケット6が形成されている。

【0012】このキーポケット6とは別に、左右側壁のいずれか他方の外側面には例えば各種のメモ片等が収納でき、外部からの透視が可能のように透明な素材による窓部を有する収納ポケット7が形成されている。

【0013】更には、ケース本体1の前側壁下部に多数の小径の透孔8を穿設しておくことで、収納した移動電話機等における着信音を外部に漏出させることができるようにしてある。なお、この透孔8は移動電話機における着信音発生部位置に対応したものとされ、着信音発生部が側面に配置されている場合には図示を省略したが、これに対応してケース本体1の左右側壁のいずれか一方に穿設形成されると共にキーポケット6、収納ポケット7もケース本体1の後側壁あるいは左右側壁の他方に設けられるものとなっている。

【0014】また、このケース本体1の裏面には、収納保持物品Tを収納したケース本体1自体を収納保持物品Tを携帯する者の身体に関連して保持させるための保持機構10が付設されている。この保持機構10は、図1、図3に示すようにベルト類Bを挟み込み係止する揺動開閉自在な係止板13を有し、ケース本体1の裏面上部において上方に揺動自在にして連繋されている係止手段11と、この係止手段11の下部をケース本体1の裏面下部に着脱自在に固定する固定手段16とから成るものである。

【0015】係止手段11は、ケース本体1における上部開口を半ば閉塞する前記閉塞片2のケース本体1の後側壁外側面における縫合止着されている基部に揺動自在に連繋した正面ほぼ矩形棒状の係止棒12と、この係止棒12の左右棒部のいずれか一方にその筒状の基部14によって揺動自在に連繋され、いずれか他方にその先端係合部15によって着脱自在にしてある帯状の係止板13とを備えて成る。そして、後述の如く図1に示すように係止手段11が下方に向けられて固定手段16によって固定された状態ではスラックス等のベルト類Bが横方向に沿って挿通される空隙をケース本体1裏面との間に形成し(図6参照)、図3、図5に示すように係止手段

11を一旦は上方に向けた状態でリュック等の肩掛け用のベルト類Bを折り込み挿入し、係止棒12の上下枠部と係止板13とによって蛇行状に押え込むと共に固定手段16によって固定された係止手段11によってベルト類Bに縦方向に沿って挿通支持されるものとしてある(図7参照)。

【0016】図示にあって、係止棒12はその上部枠部が閉塞片2の基部に形成されている筒部分に嵌め入れられて支承されることで上下方向に沿って揺動するようになっており、係止板13における基部14は例えばその内径を係止棒12における小径な段部にしっかりと嵌まり込む大きさのものとすることで係止板13自体の上下方向に沿うずれを阻止することができる。また、先端係合部15は図4に示すように内法幅員ないし内径大きさが係止棒12の左右枠部部分の外径に比しやや小さいものとした溝状ないし円弧湾曲状に形成されており、強制的に左右枠部に嵌まり込み、取り外されることで着脱されるものとしてある。なお、係止板13は図示にあって帯板状に形成されているも、これを適宜径の剛性番線材によって形成することもでき、その素材においても特に限定されるものではない。

【0017】ここで、係止手段11によってリュック等の肩掛けベルトの如き縦方向となっているベルト類Bに装着する場合を説明すると、図3に示すように固定手段16の解除によって係止手段11を一旦は上方に揺動すると共に係止板13を開放し、係止棒12内を大きく拡げておく。次いで、図5(A)に示すようにベルト類Bの装着部位における装着部分自体を後方に向けて折り畳み状に折り込み、この折り込み部分を係止棒12内にケース本体1の前方側から挿入し、折り込み部分の奥部が開放されている係止板13の先端係合部15位置に比し後方になるようにする。そして、図5(B)に示すように係止板13を折り込み部分内で揺動して先端係合部15を係止棒12の左右枠部に係合閉塞すると同時にベルト類Bの下部側を上方に牽引して引き締める。その後、図5(C)に示すようにベルト類Bの下部側と係止手段11とを下方に揺動し、係止手段11を固定手段16によってケース本体1裏面に固定するのであり、こうすることで係止板13と係止棒12の上下枠部とによってベルト類Bを蛇行状態にして係止棒12に挿通させ、しかもケース本体1の裏面がベルト類Bに強く押圧された状態で、更には係止板13の開放を阻止した状態でケース本体1が支持されるのである。

【0018】固定手段16は、係止棒12における下部枠部に連繋された固定片17裏面とケース本体1における後側壁外側面下部とに夫々設けられたスナップボタン、面フアスナー、フックその他の止着部18によって下方に向けられた係止棒12をケース本体1の後側壁面に固定支持するようになっている。

【0019】本発明は以上のように構成されており、次

にその使用の一例を説明すると、例えば移動電話機

(T)をケース本体1内に収納して保持するとき、スラックス等のベルト類Bによって保持する場合には図1、図6に示すように、保持機構10において下方に向けられて固定手段16を介して固定された係止棒12とケース本体1の後側壁との空隙間にベルト類Bを横方向に沿って挿通させてケース本体1を直立状に保持するのである。また、リュック等の肩掛け用のベルト類Bによって保持する場合には図3、図5、図7に示すように、同じく固定手段16による固定を解除して一旦は上方に向けられた係止棒12における係止板13を開放させておいて、ベルト類Bにおける装着部位を折り込み、この折り込み部分を係止棒12内に挿入して折り込み部分内で係止板13を揺動閉塞し、係止手段11自体の下方への揺動と共に固定手段16を介しての係止手段11自体の固定によってベルト類Bを蛇行状に挟み込むと同時にケース本体1の裏面に強く押し当てることで例えばリュック等における肩掛けベルトBを縦方向に沿って挿通させてケース本体1を直立状に保持するのである。こうすることで移動電話機(T)を身体に保持でき、閉塞片2の開閉、着脱によって移動電話機(T)の収納、取り出しを行なうものである。

【0020】また、こうした移動電話機(T)の収納保持と共に、キーホルダー5およびキーポケット6によってキーKを同時に携帯保持するものとしてもよく、収納ポケット7内に例えば移動電話機(T)の所有者名、緊急連絡先等を記載したメモ片等を収納保持しておくことで、不意の事故等に際して携帯者本人に代わって緊急な電話連絡等を行なうものとしてもよい。もとより、この種のメモ片に替えて移動電話機(T)等の簡単な取扱い説明書等を収納しておくことで取扱いに不慣れな場合での使用の便を図れるようにしてもよい。

【0021】

【発明の効果】本発明は以上のように構成されており、これがため、各種の移動電話機その他の各種機器の収納保持物品Tをケース本体1内に簡単確実に収納でき、しかも、スラックス等のベルト、リュック等の肩掛けベルト等のいずれのベルト類Bにも選択的に保持固定でき、また、付設のキーホルダー5によって多数のキーKをも携帯保持できるものであり、保持時では身体動作の邪魔にならず、使用勝手に優れるものである。

【0022】すなわち、これは本発明において、各種の収納保持物品Tを収納する開閉自在なケース本体1に、ベルト類Bに保持する保持機構10を設け、この保持機構10は、ベルト類Bを挟み込み係止する揺動開閉自在な係止板13を有し、ケース本体1の裏面上部において上方に揺動自在にして連繋されている係止手段11と、この係止手段11の下部をケース本体1の裏面下部に着脱自在に固定する固定手段16とから成ることとしたからであり、これによって、身体に装着される水平方向あ

7

るいは垂直方向に沿うベルト類Bのいずれであっても直立状態とさせたケース本体1によって収納、取り出しを容易にして収納保持物品Tを保持できるものである。

【0023】また、保持機構10における係止手段11は、ケース本体1の後側壁外側面上部に揺動自在に連繋した係止棒12と、この係止棒12の左右棒部のいずれか一方に揺動自在に連繋され、いずれか他方に着脱自在に係合する係止板13とを備え、係止板13自体を揺動開閉することでベルト類Bを係止棒12の上下棒部と共に蛇行状に挟み込むようにしてあるものである。そのため、係止手段11が下方に向けられ、固定手段16を介して下部がケース本体1の裏面下部に固定された状態ではケース本体1と係止手段11との間に形成された空隙に例えばスラックス類のベルト類Bを横方向で挿通でき、一方、固定手段16の解除によって上方へ一旦は揺動された係止手段11によって、これの係止棒12内への折り込み状のベルト類Bの挿入、係止板13の揺動閉塞、ベルト類Bの下部側と係止手段11自体との下方への揺動固定操作等で例えばリュック等における肩掛け用のベルト類Bを縦方向で蛇行状で挿通でき、しかもいずれの状態であってもケース本体1はその上下方向で反転させず、収納した収納保持物品Tの重量等によっても滑り落ちることがないのである。特に、リュック等における肩掛けベルト(B)に保持させるときには、その装着部位に直接に取り付けることができ、取扱いも極めて容易である。

【0024】しかも、ケース本体1に付設したキーホルダー5によって所定のキーKを保持できるから、外出の度に携帯することがある各種の機器と共に合せて携帯保持でき、また、外出時の機器の携帯時に自らの住宅等を施錠でき、それを失念する虞れも少なくなるものである。更に、収納ポケット7内に各種のメモ片を収納することで例えば外出先での不意の事故、病気その他に際する緊急連絡先等を表示でき、機器の取扱い説明書等をも収納できて便利である。ケース本体1の上部開口を前後側壁に跨がって掛け渡されている閉塞片2は狭幅であるから、この閉塞片2両側に開口部分を形成し例えば収納した携帯電話機等のアンテナ等を外出させておくことができる。

【0025】なお、本発明に係る携帯電話機等の携帯用

8

収納ケースは、携帯電話機のみならず、例えばポケット式ラジオ、携帯式カセットテープレコーダー、CD・MD再生機、カメラ、フィルム、双眼鏡等にも同様に使用でき、携帯可能な各種機器を簡単に携帯保持できるものであり、収納保持すべきものに特に限定されるものではない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の一形態における背面から見た斜視図である。

10 【図2】同じく前面から見た斜視図である。

【図3】同じく係止手段、係止板夫々の揺動操作状態を表わす背面から見た斜視図である。

【図4】同じく係止手段における係止棒、係止板の平断面図である。

【図5】同じくリュックの肩掛けベルトに取り付けるときの手順を表わす背面から見た斜視図であり、その(A)は係止手段を上方に揺動し、折り込み状にした肩掛けベルトを係止棒内に挿入した状態、(B)は係止板を閉塞し、肩掛けベルトの下部側を引き上げて係止した状態、(C)は係止手段を下方に揺動して固定することで肩掛けベルトへの装着を終了した状態である。

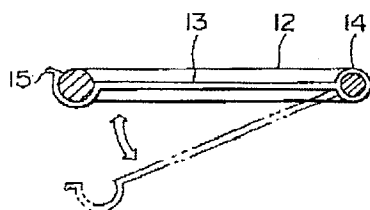
【図6】同じくスラックス等のベルトに取り付け使用時の斜視図である。

【図7】同じくリュックの肩掛けベルトに取り付け使用時の斜視図である。

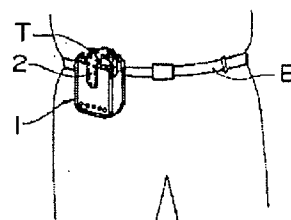
【符号の説明】

B…ベルト類	K…キー
T…収納保持物品	
1…ケース本体	2…閉塞片
3…止着手段部	4…作用用開口
5…キーホルダー	6…キーポケット
7…収納ポケット	8…透孔
10…保持機構	11…係止手段
12…係止棒	13…係止板
14…基部	15…先端係合部
16…固定手段	17…固定片
18…止着部	

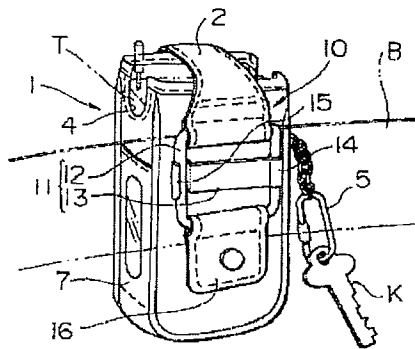
【図4】



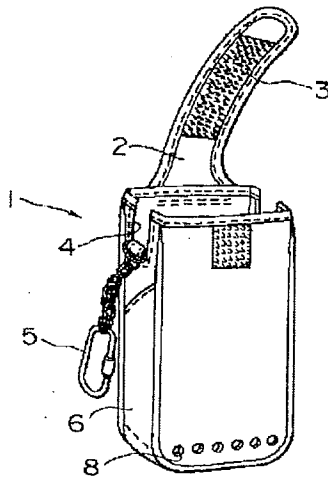
【図6】



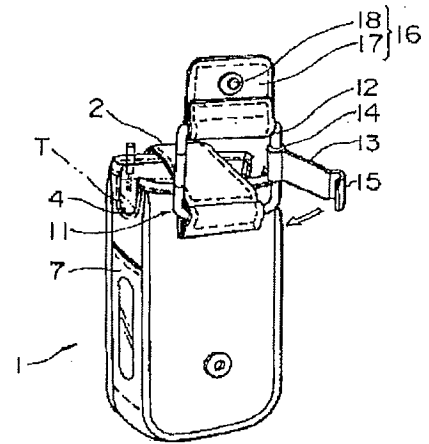
【図1】



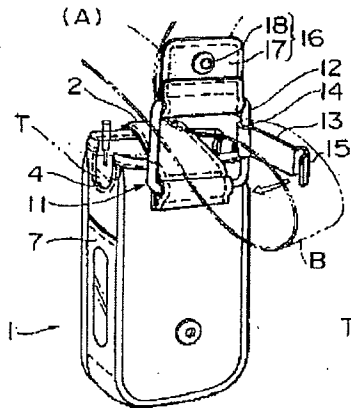
【図2】



【図3】



【図5】



【図7】

